

平成29年度事業報告

I. 概要

平成29年度の住宅着工については、持家、貸家とも減少し、前年度比2.8%減の94.6万戸と3年ぶりの減少となった。月別には平成29年7月以降、9ヶ月連続で前年同月比マイナスとなっており、厳しい状況が続いている。

住宅施策においては、中古住宅のマイナスイメージを払拭し、既存住宅の流通を促進するため、インスペクションの実施やリフォーム情報の提供等を行う「安心R住宅」制度の創設、住宅・建築物の省エネ化に対する支援、住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する調査の推進など、多くの施策が講じられてきた。

このような状況の中、当協会の理念である「安全で持続できる快適な住生活の実現」と「住宅部品の機能の確保、品質の向上」に向けて、主要活動事項に掲げる項目を中心として、部会、委員会等において、積極的な事業活動を展開した。

II. 主要活動事項

1. 住宅の省エネルギー化など住宅部品の性能の向上

- (1) 建築物省エネ法、ZEH(ゼロエネルギーハウス)などの省エネに係る各種制度の情報収集・情報共有を行った。
- (2) 「良好な温熱環境実現研究委員会」に参画するとともに、各部会等において活動状況の共有化を行った。また、次年度以降の研究成果の普及方策等について、検討を行った。
- (3) WindEye のバージョンアップとして計算速度向上等の改善を行うとともに、よりわかりやすい導入画面とするなどの改良を行った。
- (4) 中小工務店の省エネ基準適合支援のため、国土交通省が募集した国庫補助事業の事務事業者に応募し、「中小工務店への講習会及び適合証明サポート支援事業」の事務事業を実施した。

2. 良質な住宅ストックの形成、リフォーム事業の拡大

2-1 長期使用時の安全安心な住宅部品のあり方の追求

- (1) 「安心して暮らせる住まいのためには」をテーマに、10月10日に第6回「住宅部品点検の日シンポジウム」を開催した。
- (2) 「自分で点検！ハンドブック」の住宅事業者向けの普及に取り組むとともに、屋根、外壁、照明等を新たに対象に加え、また推奨交換時期を掲載した改訂版の策定を進めた。
- (3) 消費者へ住宅部品点検の普及を推進するため、点検キャラクター「ジュウテンジャー」の動画を新たに作成し、イベント、ホームページでの活用を図った。また、東京都の消費者イベント等に参加し、普及を図った。
- (4) 平成28年度に引き続き、住宅部品関連団体連絡会を2回開催した。

2-2 リフォーム需要の顕在化・拡大への対応

- (1) 安心R住宅など各種制度等に関し、国における検討状況などの情報収集、情報提供を行った。
- (2) (一社)住宅生産団体連合会、(一社)住宅リフォーム推進協議会、(一社)ベターライフリフォーム協会など関連諸団体との連携活動を継続し、国への制度改善の提案、調査研究等を実施した。
- (3) 安全・快適なリフォームを消費者へ普及するための「リフォームで生活向上プロジェクト」に参画し、イベントを推進した。

3. 住宅、住宅部品に係わる新たな課題への対応

- (1) 平成29年10月から登録実施機関の登録が始められた「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」について、(一社)日本建材・住宅設備産業協会と共同で運用ガイドを作成し、ホームページへの掲載等を行った。
- (2) IoTに関し、講演会の開催、ALIA NEWSでの特集、建産協「IoT住宅研究会」への参画など、情報収集や情報発信を行った。

4. 優良住宅部品の普及促進等

- (1) 戸建用宅配ボックス、洗面化粧ユニット、浴室ユニットなどBL部品の認定基準制定・改正に協力した。またBL部品ガイドブックの改訂作業にも協力した。
- (2) BL制度の改定・改正に関し、会員への迅速適切な情報提供や会員企業の意見の取りまとめを行った。
- (3) BL部品の普及促進に努めるとともに、ユーザーへのBL部品の認知度向上を図った。

5. 情報の収集と発信

- (1) 機関誌「ALIA NEWS」を年4回発行した。特集では、IoT、住宅部品の長期使用安全など重要なテーマを取り上げるとともに、ALIAの事業活動、住宅業界や会員の動向など、内容の充実に努めた。
- (2) WEBサイトのトップページの改修(スマホ対応、住宅部品点検スペシャルサイト「ジュウテン」の新設等)を進めた。
- (3) タイムリーな情報発信のため、メールマガジン(定期・不定期)の配信充実に努めた。
- (4) 住宅関連の法制度、補助、融資、税制等に関し、関連諸団体と連携しつつ迅速・的確な情報収集と提供を行った。
- (5) 研究成果の会員への提供等のため、事業成果物を発行するとともに研究成果報告会を開催した。

III. 事業企画部会

- (1) 事業計画や予算など、運営委員会への付議事項について、検討を行った。
- (2) 住生活関連の法令・制度、助成策、金融政策、税制等に関し、情報の収集と

対応方針の検討を行った。

- (3) 優良住宅部品認定制度の見直し等の検討に参画し、ALIA としての意見集約及び会員企業への適切な情報伝達を行った。
- (4) 会員に対する魅力充実方策、新規入会の拡大方策等の検討を進めた。

IV. 広報部会

会員向け情報提供、および対外広報を強化・充実するため、「事業活動計画」に基づき、ALIA NEWS の発行、WEB による情報発信強化、イベント等による ALIA 事業の認知度向上を目指す活動を実施した。

- (1) ALIA NEWS の発行
- (2) WEB による情報発信の強化
- (3) イベント等による ALIA 事業認知度の向上
- (4) 研究成果報告会の開催
- (5) 住宅業界関連団体との連携強化

【ALIA NEWS 編集委員会】

機関誌「ALIA NEWS」を計画通り年 4 回発行した。

内容としては、ALIA 及び BL の活動内容の紹介、行政の動向や市場のトレンドの案内及び解説、会員企業及び団体の事業活動や新技術・新商品の紹介を中心に取り上げた。毎号企画する特集では、テーマとして「IoT」（春号、夏号）、「住宅部品の長期使用安全」（秋号）、「2018 年を迎えて」（新年号）をそれぞれ取り上げた。

【WEB 企画・編集委員会】

- (1) 総会、BL・ALIA 研究成果合同発表会、住宅部品点検シンポジウム等の ALIA の主要行事・活動内容を発信した。
- (2) WEB サイトのリニューアル（コンテンツ整理およびスマホ対応）に向けて準備を進めた。併せて、住宅部品点検スペシャルサイト「ジュウテン」を新設した。（4/2 公開）
- (3) WEB サイトの随時更新、管理を行った。（更新件数：一般サイト 44 件、会員サイト 61 件 計 105 件）
- (4) 会員向け定期メルマガの企画・配信を行った。

【イベントWG】

- (1) 住宅部品点検推進部会と連携し、「第 6 回住宅部品点検の日シンポジウム」の企画・運営を行った。開催概要は以下のとおり。
 - ・ 日時：2017 年 10 月 10 日（火） 13:00～16:40
 - ・ 場所：すまい・るホール
 - ・ 基調講演：定行日本女子大学教授
 - ・ 研究報告：BL 及び ALIA
 - ・ パネルディスカッション：向殿明治大学教授等

(2) 「第7回住宅部品点検の日シンポジウム」の開催に向けて準備を行った。

- ・日時：2018年10月10日（水）実施予定

V. 専門部会

1. 消費者・制度部会

(1) 昨年度「住宅部品の経年劣化の危険や点検に関心の低い長期使用者グループインタビュー」を踏まえ、一般使用者の意識の検証と、「住宅部品の性能向上をもって早めの買い替えメリット訴求」が経年劣化事故防止にどのような影響を与えるかに関してWeb調査「住宅部品経年劣化事故防止のための買い替え促進の可能性を探るアンケート」を実施し、以下の結果を得た。

- ① 早めの交換という注意喚起に対して長く使いたいという思いは、点検に関心の低い長期使用者と同様であった。
- ② 早めの買い替え推奨は消費者にとってもメリットがある。その理由として、故障・不具合での買い替えは使用できない期間に不都合を感じ、リフォーム等での買い替えは製品選びが充実し、満足度が高いことがわかった。
- ③ 経年劣化事故の報道があっても特に気にしないという消費者が一定割合存在することから、点検文化普及に向けた活動がますます重要視される。その活動の一つとして、設計標準使用期間の表示は影響力を及ぼす可能性がある。

(2) 住団連建築規制合理化委員会に当部会代表者が参加し、建築基準法の改正等に関して情報共有した。

(3) ALIA 研究成果合同発表会で当部会の「住宅部品の長期使用に関するグループインタビュー報告書 2017.3」より、「住宅設備機器を長期使用することの危険について」をテーマとする発表を行った。

(4) 製品安全表彰を3回受賞している(株)相田合同工場、武田金型製作所、(株)玉川堂を訪問し、消費者対応に関する提供情報、手法を勉強した。

(5) 民法改正による瑕疵担保責任に関する情報共有を行った。

2. 環境部会

(1) 平成29年度研究テーマ「中小工務店における省エネ対応の実態に関する調査」をアンケート方式で実施し、以下の知見が得られた。

- ① 省エネルギー基準への適合義務化・義務化による省エネ基準適合判定の必要性については、約9割が知っており、周知は進んでいる。
- ② 省エネルギー基準に係る計算は、自社で計算、自社以外で計算したことがあるが約7割、一方知らないが15%程度。従業員4人以下の事業者は計算したことがない、知らないが約半数と小規模事業者の課題も見えた。
- ③ 省エネ基準への対応は特に問題なく進めているが4割、課題が多いと捉えているが4割、義務化されていないので対応を進めていないが2割。
- ④ 施主の省エネ住宅の重要性への理解は、大部分の施主にまでは広まっておらず、施主への理解促進が課題。

⑤ 大阪圏の施主の意識は、首都圏に比較し、省エネルギー性能、断熱性能に対する関心が低いという課題も見えた。

- (2) 合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（CW法）についての進捗・最新情報提供（クリーンウッドナビ、建材・設備メーカーのためのCW法運用ガイド、CW法登録実施機関、登録木材関連事業者等）を行った。
- (3) 国交省の安心R住宅、サステイナブル建築物等先導事業（次世代住宅型）、住宅・建築物省エネルギー性能の実態に関する研究会、断熱改修による居住者の健康への影響調査報告等の情報提供を行った。
- (4) 国交省と住宅の省エネ基準適合率について意見交換を実施した。

3. リフォーム・施工部会

- (1) 「既存住宅購入者におけるリフォーム実態調査」を実施し、消費者志向と付随したリフォームニーズについて分析した。
- (2) 住宅生産団体連合会の住宅ストック研究会に参画し、リフォーム市場活性化のための課題の抽出、インスペクションの浸透などについての要望取りまとめなどに携わった。
- (3) 国土交通省「安心R住宅」に関するパブコメに対して、部会委員の意見集約の上、住団連研究会を通して意見を提出した（建物状況調査の際、特定保守製品の確認項目が追加された）。
- (4) 住宅リフォーム推進協議会の新事業モデルWG、市場活性整備委員会、広報委員会に参画するとともに、リフォームに関する税制改革・予算要望に関するアンケートについて会員の意見を集約して提出した。
- (5) BL・ALIA 研究合同研究発表会にて28年度調査事業「消費者の今後の住まい方と関連したリフォーム意向について」を発表した。
- (6) 移動委員会にて萩・明倫学舎を見学し、また同日現地にてスムストックについて説明（既存流通の活性化取り組み）をいただいた。

4. 住宅部品点検推進部会

- (1) 住宅部品点検推進部会の事業活動の主目的は、住宅部品点検の必要性の周知と環境整備であり、各部会・委員会と連携した活動を展開した。
- (2) 毎月の部会では、各委員会・WGの課題進捗確認・共有を行った。

【点検普及ビルダー対応委員会】

- (1) 「自分で点検！ハンドブック」のビルダー向け普及策の実行
 - ① 登録リフォーム団体／関連団体への紹介、ビルダー有力購読誌への記事掲載等計画した周知策を完了した。ハンドブック活用状況把握に向け事業者購入状況の確認を継続実施した。
- (2) 「自分で点検！ハンドブック」改訂版の策定
 - ① ビルダーから要望が高かった住宅部品（屋根／外壁／照明器具／配線器具等）に加え、網戸／窓手すり／ガス警報器／インターホンを追加掲載すると共に、推奨交換時期情報を新規掲載した改訂版（全20ページ）の原稿案

を作成し、ALIA 各空間部会・委員会・関連工業会に記載内容の確認を依頼、修正を加え最終原稿を完成させた。

② 宝くじ協会助成金（裏表紙全面広告）対応に向け、通常版の表紙変更案を追加作成すると共にビルダー・リフォーム店・関連団体の反応を探るべくヒアリングによる意見集約を実施した。

③ 宝くじ版（無償配布）と通常版の普及策について、その性格をベースに有効な配布方針（周知・活用）を立案した。

(3) 他の部会・委員会と連携して進めている事業について

① 各空間部会による点検項目、推奨交換時期の確認。

② 住宅部品関連団体連絡会での改訂版制作情報の発信。

(4) WEB 更新実績・検討状況について

① 改訂版発刊時期に合わせ専用サイトで公開された。

【点検普及消費者対応委員会】

(1) 消費者向け「お手入れ点検ツール」を検討し、「点検ハンドブック」活用に繋がるツールの必要性を確認した。その結果、消費者向け点検動画を製作することとし、ジュウテンジャー動画の制作を行った。動画は、10月の交流フェスタで活用するとともに、ホームページでの活用につなげた。

(2) 東京都消費者月間事業「くらしフェスタ東京 2017」のイベント「交流フェスタ」に出展し、広報普及活動を行った。

・日時場所：2017年10月20-21日、新宿駅西口広場イベントコーナー

・内容：パネル展示（4枚）、点検リーフレット・ハンドブックなどの配布、ジュウテンジャー動画放映等

(3) 全国消費生活相談員協会に「第3回住宅部品ショールーム研修会」を開催し、クリナップ新宿ショールーム見学、「自分で点検！ハンドブック」やジュウテンジャー動画の紹介等を行った。

【業界連携委員会】

(1) 住宅部品点検の日シンポジウムに新規に1団体（日本LPガス団体協議会）に協賛いただき、計26団体より協賛を得た。

(2) 平成28年度に引続き「第4回・第5回住宅部品関連団体連絡会」を開催した。

① 第4回（平成29年8月2日）では、事例紹介「住宅用火災報知機に関する取組等について」と講演会「住宅点検における地域工務店の役割とその必要性」を行った。（出席者数：協賛14団体19名、BL・ALIA計38名）

② 第5回（平成30年2月26日）では、事例紹介「給水栓の点検・維持管理～バルブ工業会の啓発活動について～」と講演会「電子メディアによる生活者向け情報発信について～ナッジ理論を使ったトッパン最新事例を交えて～」を行った。（出席者数：協賛14団体19名、BL・ALIA計49名）

【住宅部品点検研究委員会】

- (1) 住宅供給者がどのようなメンテナンスを行っているかについて、実態調査を実施し、10月10日「住宅部品点検の日」シンポジウムにおいて研究結果を報告した。
- (2) 「長期使用製品安全点検制度に対するノーリツの取り組み」に関し、講演会を開催した。

VI. 空間等別部会・部品別委員会

1. トイレルーム部会

【温水洗浄器委員会】【洗面化粧ユニット委員会】

- (1) アメニティカフェの部品情報改訂のため、大便器の改定案を協議・取りまとめの上、(一社)レストルーム工業会へ意見照会を依頼した。工業会内の関係委員会(複数)でのチェックをしていただくため、年度明けに回答をいただくことを合意した。
- (2) BL 基準改正等について、以下の活動を実施した。
 - ① 洗面化粧ユニットについて、キッチンバス工業会でまとめられた JISA4401 (洗面化粧ユニット類)の改正原案をもとに、BL 基準の改正点を整理し、内容確認を行った。(4月以降に改正の予定)
 - ② BL ガイドブックの改正にあたり、洗面化粧ユニットの記載内容を確認し、修正案を検討した。
 - ③ 便器・圧送便器の搬送性試験に使用するトイレトペーパーの修正案につき情報共有した。案として、JIS 規格品の販売状況など調査結果を踏まえ、【解説欄へ JIS 品同等品の定義を掲載する】方向で進めていく。
 - ④ 次年度の検討テーマとして、便座を便器の必須構成品からセットフリー品へ変更(便座に関する基準は残す)することを協議・推進していく。
- (3) 施設見学会として、水に対する知見を深めるため、白洋舎多摩工場の視察を実施した。
- (4) 以下の情報を共有した。
 - ① BL 部品に関連し、BL 保険の概要・保険適用例について
 - ② 公共住宅建設工事共通仕様書の改正版の概要
 - ③ 専門部会(環境、消費者制度、リフォーム施工)関連情報
 - ④ H29 年度グリーン購入法の決定「電気便座の判断基準の見直し」等

2. バスルーム部会

【浴槽委員会】【ユニットバス委員会】

- (1) 住宅部品点検推進部会、環境部会、リフォーム・施工部会、消費者・制度部会の活動状況の共有化・浴室関連情報の収集等を通じて、バスルーム部会としての対応方針を確認した。具体的には点検ハンドブック改訂版に対する内容確認などを行った。
- (2) 浴室ユニットの BL 基準改正(タオル掛け、照明器具コード長さ)について、各社確認調査を行い、改定に協力した。

- (3) 「住宅における良好な温熱環境実現研究委員会」の活動状況の共有化と意見提示を行った。同研究会でも消費者周知が課題との報告に対し、次年度はアメニティ Café の活用等で協力していくことを確認した。
- (4) 浴室等の温熱環境とヒートショック認知度に基づく入浴行動と暖房・換気の使用実態調査を行い報告書としてまとめた（換気ユニット委員会協同）。ヒートショック認知度により行動や意識に差があることが伺えた。
- (5) 檜創建(株)他を視察し、檜風呂製造における木工過程の参考になる見学や事業概要について有益な情報が得られた。
- (6) 今年度調査事業の内容を整理し、次年度にアメニティ Café において温熱環境関連の新規内容も含めた改定を進めることを確認した。

3. リビングルーム部会

【階段・はしご段委員会】【内装システム委員会】【内装ドア委員会】

- (1) 「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」について、林野庁サイト「クリーンウッドナビ」掲載の手引、家具ガイドライン、Q&A について情報共有を行った。
- (2) 東京都「ドアの安全性に関する調査」について、東京都担当者を招いて意見交換会を実施した（5/24）。調査結果への対応として、①アメニティ Café での消費者向けの注意喚起 ②「内装建材の警告表示に関するガイドライン」によるメーカー対応 の2方向で検討し、①はHP掲載内容の作成を行い、②は現状のガイドラインに子どもへの注意は記載されているため、改訂は行わないこととした。
- (3) 美和ロック株式会社 玉城工場を視察、鍵の生産ライン・仕組みを学び、意見交換を行った。
- (4) 「公共建築工事標準仕様書」改定に関して、16.7.2 木製建具の材料に合板以外の木質ボードも盛り込むよう要望を提出した。
- (5) 「2016年統計ハンドブック」への情報提供を行った。

4. キッチンルーム部会

【キッチンシステム委員会】【調理用加熱機器委員会】

- (1) 「世帯属性に着目したシステムキッチンのニーズ調査」を実施した。
- (2) 点検普及ビルダー対応委員会と連携し「自分で点検！ハンドブック」の重大事故に関する点検項目を見直した。
- (3) JIS改正に伴うBL改定案の検討、ディスポーザー（直投式）の基準化について情報共有した。
- (4) ㈱竹中工務店竹中大工道具館、東京ガス(株)厨 BO!SHIODOME を見学し、当地にて委員会を開催した。
- (5) 食器洗い乾燥機の勉強会を実施した。

5. 住宅情報部会

【住宅情報システム委員会】

- (1) 建産協「IoT 住宅研究会」(4/7、5/12、6/9、7/7、8/4、9/1、12/1、1/12 の会合)に参加し、概要について情報共有した。
- (2) BL・ALIA 研究成果合同発表会「住生活と IoT」、エコーネットコンソーシアム「IoT 住宅サービスの事例」等について、情報共有した。
- (3) 国立研究開発法人建築研究所、政策研究大学院メンバーと委員会各社の IoT 取組み事例について、ディスカッションを実施した。
- (4) アメニティ Cafe「既設のインターホン設備(システム)の更新について」の更新を実施した。
- (5)「自分で点検！ハンドブック」の居室周りにインターホンを追加した。
- (6) 施設見学会 (TOTO ミュージアム北九州)を実施した。

【テレビ共同受信機器委員会】

- (1) 昨年 12 月に制定された BL 認定基準の 4K・8K 衛星放送に対応した機器および、これらの機器で構築した標準システムの検証を行い、その妥当性を確認した。これら BL 認定部品を使用して新設標準システム・改修標準システムをそれぞれ 2 系統構築し、単体機器の周波数特性、ブースタ単体機器の特性、さらに標準システムの周波数特性およびテレビ端子での信号品質を確認し、その結果を報告書として取りまとめた。
- (2) また委員会傘下の技術 WG において、平成 29 年度報告書の取まとめ、総務省衛星放送用受信設備作業班に対応する漏洩規程の審議、国土交通省建設設備基準改定に対する意見の取りまとめ等を実施した。
- (3) 普及 WG では平成 28 年度報告書を委員会メンバーや関係機関へ配布した。また一般ユーザーと当委員会の窓口である ALIA ホームページのアメニティ café および BL システムカタログの変更検討を実施した。
- (4) 統計 WG では BL 出荷統計に 4K・8K 衛星放送対応機器を追加し、市場のトレンドを調査した。
- (5) 当委員会から 2 名が総務省衛星放送用受信設備作業班「光配信アドホックグループ」へ委員として参加し、衛星放送用受信設備の光配信方式について検討を進めた。引き続き平成 30 年度も当委員会から「光配信アドホックグループ」へ参加を予定している。

【火災・ガス警報委員会】

- (1) 住宅火災における属性(性別、年齢)別死者数の推移を共有し、今後の高齢化社会における火災・ガス警報器が果たすべき役割等について議論した。
- (2)「自分で点検！ハンドブック」の改正にあたって、ガス警報器の交換時期も含めて掲載した。
- (3) 住宅における布団のくん焼火災の特徴について、寝具素材の影響に注視した研究結果を共有し、CO 警報器の有用性等について議論した。
- (4) 苫小牧バイオマス発電所を視察し、地産地消、環境対応等に関する理解を深めた。

- (5) 消防庁、東京消防庁、東京理科大から有識者を招き講演会を開催し、糸魚川火災を含む市街地火災や住宅火災の近年の状況、住宅用火災警報器の普及状況や交換・維持管理等の最新状況および施策について、理解を深めた。

6. 給湯・暖冷房部会

- (1) 委員会が給湯熱源毎にガス・石油・電気・太陽熱に分かれ、また暖冷房分野も含まれているなど広範囲に亘るため、各分野での活動は各委員会で主に実施することとし、給湯・暖冷房部会では以下の活動を実施した
- (2) 各委員会の横の連携を深めるための情報交換を年1回（上期・下期各1）実施した。
- (3) 慶應義塾大学工学部システムデザイン工学科の伊香賀俊治教授を講師に招き、「健康に暮らせる足元の暖かい住宅等の実測調査」というテーマで1/9に講演会を開催した。給湯・暖冷房部会以外の部会も含め、総勢で42名が参加した。

【ガス給湯委員会】【石油給湯委員会・ソーラーシステム委員会】

- (1) H25年省エネ基準に準拠したWEBプログラムの使用がH28年度末で終了したことから、各社HPに掲載している給湯効率一覧表のH25年省エネ基準用の注釈文の取扱いについて検討を実施した。
- (2) WEBプログラム対応として、24時間換気機能付き浴室暖房乾燥機の消費電力表示について、従来の構造規定（太ダクト+DCモーター）での運用に加え、製造事業者が定める標準的な圧力損失時の比消費電力での運用および各ダクト相当長の比消費電力での運用の標準化ルールについて情報共有を実施した。
- (3) 「自分で点検！ハンドブック」の改訂内容について情報を共有し、問題がないか確認作業を実施した。
- (4) 温水機器トップランナー基準の見直し検討状況、ZEHの3省連携事業、エネマネハウス2017、フラット35リノベなど、国の省エネ関連政策動向について情報を共有化した。
- (5) 「住宅における良好な温熱環境実現研究委員会」、「ブルー&グリーンプロジェクト」など、ベターリビングの関連事業について情報を共有化した。
- (6) ヒートショックによる入浴時の事故の低減に向けた取扱説明書の見直し（H29年12月実施）などの日本ガス石油機器工業会の活動状況について情報を共有化した。
- (7) 移動委員会を開催し、北海道ガス札幌東ビル、積雪寒冷地型スマート賃貸住宅の見学、情報収集を行った。

【電気給湯委員会】

- (1) BL認定基準の改正等について情報交換を実施した。
- (2) 長期優良住宅化リフォーム推進、住宅の改正省エネルギー基準適合義務化の検討状況等について行政や関係団体から情報収集し、情報共有化を図った。

- (3) 「自分で点検ハンドブック」の改定内容等関しての情報共有を行った。また、推奨点検時期の表現見直しについて検討を行った。
- (4) アメニティCaféの見直しはなかったが、今後「自分で点検ハンドブック」の改定、JIS C 9220改定に合わせ必要に応じて内容の更新を図ることとした。
- (5) 住宅部品統計ハンドブックの掲載内容について①市場動向コメント、②統計データについて検討を実施した。
- (6) 電気給湯委員会の活性化と委員の知見向上を目的に、セイコーミュージアムの見学を実施した。
- (7) 良好な温熱環境の実現に向けて、ベターリビングからの依頼であるALIA企業関係者との意見交換会についての情報共有をした。

【暖冷房システム委員会】

- (1) 更なる環境負荷低減に向けた取り組みとして、「エコジョーズで ZEH」(BL パンフレット) を用いて情報共有および意見交換を実施するとともに、WEB プログラム対応についての情報共有および意見交換を実施した。
- (2) 良好な温熱環境実現研究委員会の調査研究方法およびその進捗状況を情報共有し、意見交換を実施した。
- (3) 東京ガスが販売開始する新モデルのエネファームの仕様・特徴の説明会を実施した。
- (4) 移動委員会(見学先: 大和ハウス工業(株)総合技術研究所)を実施した。
- (5) 国交省の事業、IOT 関連などについて情報収集し情報共有した。
- (6) 住宅部品統計ハンドブック作成、「自分で点検! ハンドブック」の改訂、アメニティ Café での新たな取り組みについて協力、意見交換を行った。

7. 開口部会

各委員会「アルミ、断熱型サッシ、スチール部品、手すり・補助手すり」及び専門部会「環境、消費者・制度、リフォーム・施工部会、業界連携・点検普及ビルダー対応委員会」の活動状況と関連する業界情報の共有と意見交換を実施した。

【スチール部品委員会】

- (1) BL 認定推進のための BL 玄関ドア付加価値向上検討会へ参画し、機能・性能の実現性や優位性を検討した。
- (2) 東京都生活文化局が策定する「ドアの安全に関する報告書」についての意見交換会に関連委員会として参画し、意見交換を行った。
- (3) 平成 28 年版公共住宅建設工事共通・特記仕様書に関し、事連協(公共住宅事業者等連絡協議会)が作成した案に対して検討し、要望を提出した。
- (4) 「2017 年版住宅部品統計ハンドブック」へ出荷統計データの情報提供を行った。
- (5) 「自分で点検! ハンドブック」改訂に関し、関係部分の検討を行った。
- (6) 安川電機みらい館(北九州市)を視察した。

【手すりユニット委員会】【補助手すり委員会】

- (1) 「墜落防止手すり」の不具合事例調査報告の確認を行った。
- (2) 東京都商品等安全対策協議会「子供のベランダからの転落防止のための手すりの安全対策」へ参画した。
- (3) 公共住宅工事共通仕様書の改定内容の確認を行った。
- (4) アメニティ Café「手すりユニット・補助手すり」の改訂、統計ハンドブックに掲載する出荷統計データの収集、「自分で点検！ハンドブック」の見直しへの協力を行った。
- (5) UR 都市機構（八王子市）の公開施設を見学した。

【断熱型サッシ委員会】

- (1) 平成 28 年版公共住宅建設工事共通・特記仕様書に関し、事連協（公共住宅事業者等連絡協議会）が作成した案に対して検討し、要望を提出した。
- (2) 「2017 年版住宅部品統計ハンドブック」へ出荷統計データの情報提供を行った。
- (3) 「自分で点検！ハンドブック」改訂に関し、関係部分の検討を行った。
- (4) 稚内市内の省エネに関する施設、住宅（施工中現場含む）の視察を行った。地元建設会社の現場での断熱の仕方等を見学し、また高断熱住宅で住居者の方との意見交換等を行った。

【アルミサッシ委員会】

- (1) 長期使用時の安全安心な住宅部品のあり方の追求のため、関連する専門部会・委員会に参画して活動を実施した。
- (2) 「ドアの安全性に関する調査」意見交換会に参画して、意見交換、取組みの共有を行った。
- (3) 省エネ性能向上に関する施策や IoT 住宅について情報収集と共有を行った。
- (4) サッシ、改修用サッシの BL 認定基準等について要望を提出し、基準改正に協力した。
- (5) 「住宅部品統計ハンドブック」の浴室ドアの出荷数量・金額等の情報提供を行った。
- (6) 独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）製品安全センター 大阪事業所を見学し、製品事故の原因調査・分析と再発防止の取組み等の情報共有を行った。

8. 外皮部会

- (1) H28 年度に作成した「外皮ってなに？」パンフレットの内容を改訂した（説明文や図をわかりやすい表現に変更、浴室事故についてヒートショック起因から熱中症起因に変更、新商品の追加等）。
- (2) 改訂したパンフレット・推奨製品リストを会員各社で配布した。また、パンフレット内容を「アメニティ Café」にアップした。
- (3) 平成 29 年度 ZEH 補助金施策や省エネ基準関連情報について共有化した。

- (4) 「住宅における良好な温熱環境実現委員会」特に構工法分科会の検討状況について共有化した（既築木造以外も含めた改修方法、シミュレーション結果など）。
- (5) 様々な環境手法を取り入れた北九州のTOTOミュージアム等を視察した。

9. 共同設備部会

【給水ポンプシステム委員会】

- (1) BL と共同で、給水ポンプに関する Q&A を作成しホームページに掲載した。
- (2) 函館市旭岡浄水場を視察し、地域の水道情勢のヒアリングを行った。
- (3) アメニティ Café の新製品情報、会社情報等を見直した。

【給水タンク委員会】

- (1) 給水タンク支援サービスの運用を行った。登録案件について特に問題は発生していないものの、登録件数は増加傾向であるがまだ低レベルである。今後登録方法や PR 方法を検討し、登録件数増加を推進する。
- (2) 各種給水タンクの出荷実績調査を実施し、H29 年の出荷実績を取り纏めた。
- (3) 水槽の重要性を広めるため、貯水槽水道の適切な管理に関するシンポジウムに参加し新水槽ビジョンの配布等の PR を実施した。

【エレベーター委員会】

- (1) リフォーム需要の顕在化等に向けて、既設エレベーターの利用や管理に関するマンション居住者等の意識を調査する WEB アンケートを実施した。（報告書は、ALIA ホームページ会員サイトに 5 月掲載予定）
- (2) 他の住宅部品におけるリフォーム需要顕在化に向けた施策の情報収集として、「LIXIL 資料館」を見学した。
- (3) 「既設エレベーターの維持管理・リニューアルへのマンション居住者等の関心度向上に寄与する施策の検討、実施」を主要テーマとした平成 30 年度事業計画を策定した。

10. アウトドア部会

【屋外収納ユニット委員会】

- (1) (社)プレハブ建築協会の要請により応急仮設住宅向けの物置（屋外収納庫）の供給可能数について調査を行い、1 月末に回答した。
- (2) 移動委員会として「つくば建築試験研究センター」を視察した。
- (3) アメニティ Café の更新見直しを推進した。

【郵便受箱委員会】

- (1) 郵便受箱の出荷統計データを収集して情報提供を行った。
- (2) アメニティ Cafe の見直しを行った。

【宅配ボックス委員会】

- (1) 安全性、品質を十分に考慮した基準の制定に向け、戸建用宅配ボックスの BL 基準化に向けての WG に参画した。
- (2) 市場変化に対応した集合住宅用宅配ボックス BL 認定基準の見直しに参画した。
- (3) 2017 年度の「集合住宅・戸建住宅用」の宅配ボックス出荷台数集計及び市場動向分析を実施した。
- (4) ALIA NEWS 夏号（宅配 BOX に関する特集）に宅配ボックス関連の情報を掲載した。

1 1. 換気・配管システム部会

【換気ユニット委員会】

- (1) 「住宅における良好な温熱環境の実現のための調査研究」、一次エネルギー計算 web プログラム（換気）について、情報共有した。
- (2) 浴室換気関連の実態調査（web 調査）について、バスルーム部会で作成した案をベースに追加、修正内容を委員会で検討した。
- (3) アメニティ Café の見直しを行った（24 時間換気システムの設計ポイント、サイトマップ、お手入れについて）。
- (4) 最新の住環境空間を体験し知見を深めることを目的として、積水ハウスの「エコ・ファーストパーク」を見学した。

【配管システム委員会】

- (1) 2017 年 3 月改正の BL 基準に整合させるため、アメニティ café の掲載内容について見直しを行った。
- (2) BL 証紙の啓蒙のため、事故事例毎の保険適用可否を HP 掲載し周知することを検討した。
- (3) 先分岐方式を BL 基準化することについて意見交換を行った。

VII. その他の委員会

【窓の熱性能審査委員会】

- (1) WindEye のバージョンアップを上期と下期の 2 回行った。
上期のバージョンアップは、勝手口に取り付く腰パネル付框ドアの計算機能追加、及び上げ下げ窓と FIX 窓の連窓に対する計算機能追加の 2 項目を行った。
また、下期のバージョンアップについては、各 WG からの要望について実施の優先順位を付け、計算速度改善、プログラムセキュリティの強化、利用者アンケートの機能追加等の実施を行った。
- (2) WindEye の導入画面について内容、見易さについて検討し、リニューアルした。
また、WindEyeGlass も公開を始めた。
- (3) TB2D/BEM 講習会を実施した。（開催日：8 月 23 日、受講者数：7 名）
- (4) ガラス選択済み商品の登録を行うために審査方法の再検討を行い、フレーム審査実施時の判断の基準を作成した。

(5) 登録数は以下のとおり。

フレーム登録数	948 窓種 (7,017 断面)
ドア登録数	4 商品 (52 断面)
ガラス登録数	71 基礎データ

VIII. プロジェクト

【統計ハンドブック編集PJ】

住宅部品に係る市場動向と市場規模の変化を的確に把握するため、統計データを時系列に収集・整理し、今後の市場動向を加味した「2017年版 住宅部品統計ハンドブック」を作成し、会員企業をはじめ関係団体等に広く情報提供した。

(参考)

- ・住宅部品（商品収録数：63分野96品目）の統計データです。
- ・業界統計等で金額のない品目は単価を推定し金額規模を算出した。
- ・原則として国内全出荷数量のデータを掲載し、住宅用推定比率より、住宅部品の全体市場規模を算出した。